県内の保育に関わる参加者たちと、意見を交わす長崎知事

県民一人ひとりがパートナー

県民対話 知事と語る やまなしづくり

「県民一人ひとりが豊かさを実感できるやまなし」の実現に向けて、県政の課題を把握したり、新たな施策の立案などに生かしたりするため、県民の皆さんと知事との対話の場を設けています。10月には、介護と保育に関する2回の対話を行いました。

今後も、知事が直接、さまざまな分野の方々から貴重なご意見を伺い、県政に反映していきます。

全ての子どもたちの可能性が花開くよう 保育環境が充実した山梨にしたい

「子どもを主役とした保育の提供」をテーマとした10月27日の対話には、県内の保育所経営者や保育士、学生など12名が参加しました。参加者からは、障害のある子どもの受け入れや支援、保育人材の確保、保育所における感染症予防対策のガイドライン策定の必要性など、現場におけるさまざまな課題や意見が出されました。

自然保育を実施している園で働く保育士から、子どもたちが目を輝かせながら、自然と触れ合う遊びの中で、自ら学び、自ら考えている様子が紹介されると、知事は「実際に土や自然に触れると子どもたちの笑顔が違うんですね。先生と子どもたちが、山で泥んこになったり、川に飛び込んだりして遊ぶ共通体験ができるのは、山梨ならではですね。本県の豊かな自然を生かせる保育環境をセールスポイントにしていきたいです」と、自然保育の推進に強い意欲を見せました。

さらに、保育士を目指す学生からの「園庭もあり、自然に囲まれた山梨で保育をしたい」「生まれ育った大好きな山梨で働きたい」との声には「幼稚園や保育所でこれから働こうとされている、また現在働いている方々にとって、魅力ある場所となるよう、取り組んでいきたい」と応じました。

活発な意見交換が行われ、参加者の思いを受け止めた知事は「障害や家庭環境などに左右されず、全ての子どもたちが持つ可能性を引き出し、花開くような保育ができるのが山梨だ、という地域づくりを進めていく」と、対話を締めくくりました。

参加者の意見に耳を傾ける長崎知事

自然保育の大切さを語る保育士

第2回の県民対話に参加した方々

利用者視点に立った介護サービスの提供とは

10月13日には、県内の介護保険施設などに勤務する、介護アンバサダーをはじめとする介護職員や技能実習生など10名と「利用者視点に立った介護サービスの提供」について、意見交換を行いました。

介護現場の声を伝える参加者

参加者からは新型コロナウイルス感染症の感染防止対策による家族との面会や外出の自粛などで、利用者の元気がなくなったり、歩行が困難になったりするなどの影響が出ていることが報告されました。また、利用者視点の質の高いサービスを提供するためには、家族が安心して利用者を任せられる人材を育成することが重要で、そのためには職員研修の強化などが効果的であるなどの意見が上がりました。

これらを受け、対話の最後に知事は「必要とするサービスを、利用者が待つことなく受けられる介護待機ゼロ社会の実現を目指していく。また、利用者が心身ともに豊かな生活を送れるようにするため、介護職員だけでなく、家族や地域の人たちと一緒に、オール山梨で支えていけるよう、市町村とも相談しながら施策に反映させていきたい」と決意を語りました。

第1回の県民対話に参加した介護従事者の方々

【問い合わせ先】広聴広報グループ TEL 055-223-1336 FAX 055-223-1438